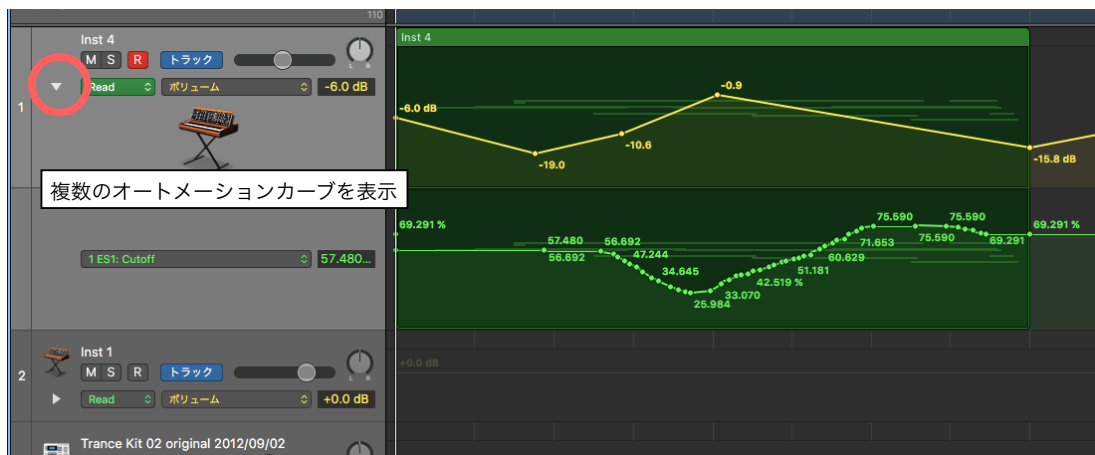
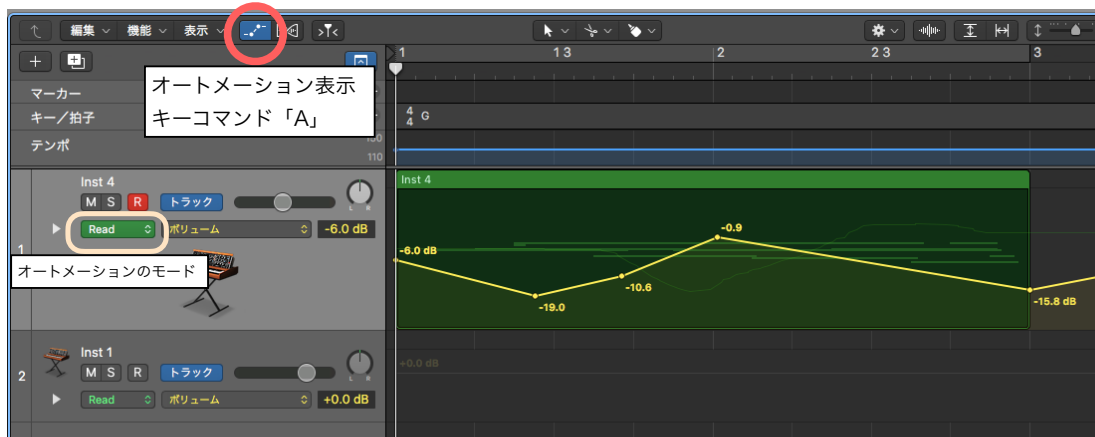


第6回 オートメーションとMIDIドロー

オートメーションとは、フェーダー、ノブ等パラメーターの動きを記録し自動化させることです。オートメーションはすべてのトラックで使用できます。トラックのボリューム・パンなどの基本情報から、各シンセ・エフェクトプラグインの詳細パラメーター、エフェクトのOn/Off、バイパス、Send/Bus等のあらゆるコントロールが自動化できます。オートメーションを書き込む時に「録音」状態にする必要はありません。再生時にリアルタイムで書き込むことができます。

オートメーションの表示



オートメーションモード



基本的には「Read」と「Latch」を使います。

Read・・・読み出し専門

Latch・・・リアルタイムでの書き込み時、または修正時に使う。パラメーターを触った時にデータが書き込まれます。パラメーターを触らなければ既存のデータは変化しません。

「Touch」はLatchとほぼ同様、「Write」は再生時に常にデータが上書きされるので極めて注意が必要です。

オートメーションの書き込み

書き込みには主に2種類の方法があります。マニュアルでデータを書き込む方法とリアルタイムでパラメーターを動かしながら記録する方法です。

マニュアルでデータを書き込む

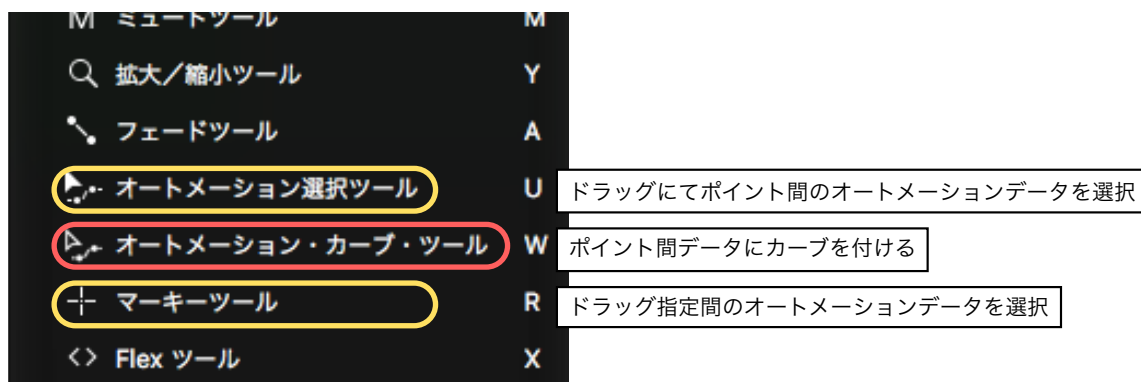
目的のパラメーターが明確にわかっている場合、パラメーターを指定し、オートメーションを表示させてデータを書き込みます。書込むには「ポインタツールでダブルクリック」または「鉛筆ツールでクリック」します。基本「Read」モードにしておきます。

リアルタイムでパラメーターを動かしながら記録する

Latchモードで再生することでシンセサイザーやエフェクターのパラメーターを触りながらリアルタイムで書き込むことができます。「Latch」モードでは触っているときだけデータが改変されます。概ねの記録が終了したら「Read」モードに戻し、マニュアルでデータ修正を行うのが良いでしょう。

オートメーションデータの編集

種々の編集ツールを選択できます。特にオートメーションデータの選択には「オートメーション選択ツール」か「マーキーツール」を使います。データの移動やコピーには「ポインタツール」か「オートメーション選択ツール」を用います。

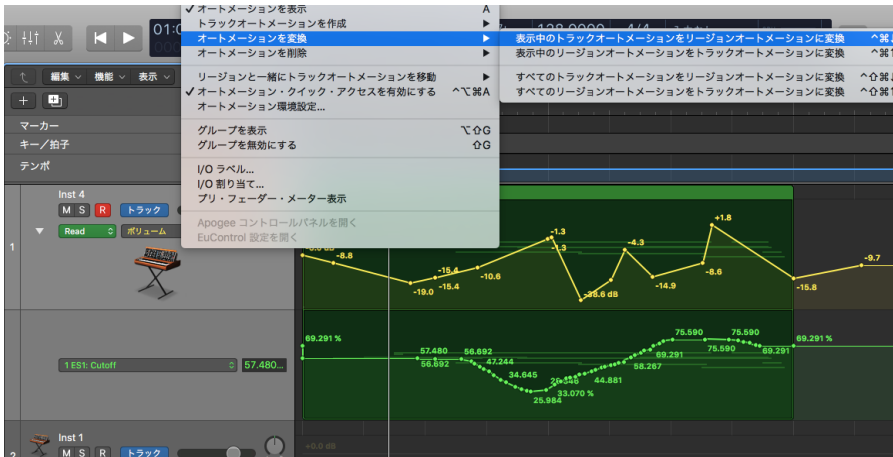


MIDIドロー(リージョンオートメーション)

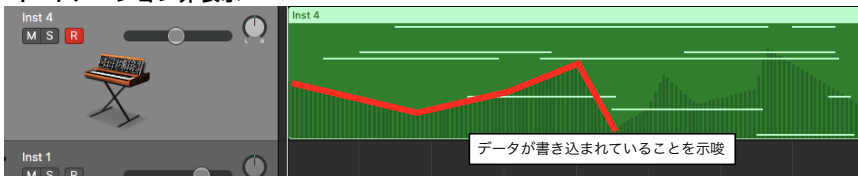
オートメーションによく似ていますが、オートメーションがアレンジ領域の下地に直接書き込まれるのに対し、MIDIドローはリージョンにデータが埋め込まれる点がオートメーションと異なります。リージョンオートメーションという用語もLogicProXで使われますが、意味はMIDIドローとほぼ同じです。MIDIドローとオートメーションは互いに変換が可能です。MIDIドローにした場合、ピアノロールやイベントリスト上にてデータの確認が可能です。また、ステップエディタにて高度な編集も可能になります。

オートメーションとMIDIドローのデータ変換

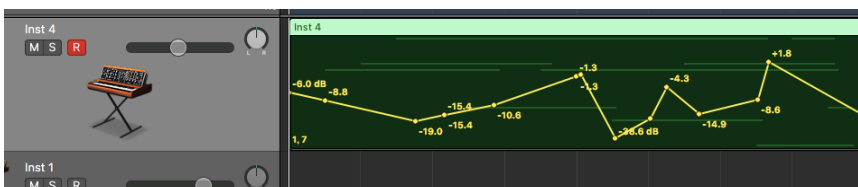
オートメーション表示からMIDIドローへの変換



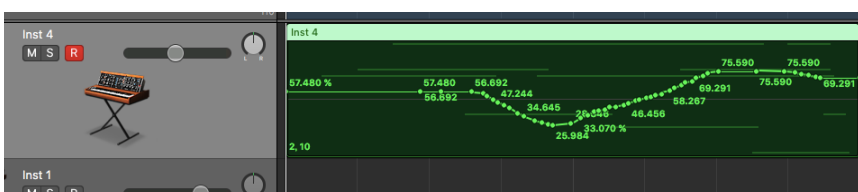
オートメーション非表示



⌘Y(自動定義)にてデータを表示



⌘Y(自動定義)を繰り返すことで次々とデータを表示する



MIDIファイルの書き出し

他のDAWとのデータのやり取りをするときや、演奏データのみが必要なときなど、MIDIファイルの書き出しが必要になります。MIDIファイルは「オーディオデータを一切含まない、演奏と各種コントロールを主とした数値データ」のことで、一般的には「スタンダードMIDIファイル」と呼ばれ、複数のトラック情報を含めた「タイプ1」が通常使われます。

書き出し時の注意点

非破壊編集を破壊編集に変換してデータを確定させる

クオンタイズをかけたり、インスペクタにてリージョン編集をしたり、各種MIDIエフェクトを施してデータを修正しますが、これらのデータ編集は元のデータが保持され続けている「非破壊編集」です。そのためいつでも元データに戻すことが出来るのですが、MIDIファイルへの書き出し時には、編集データを「破壊編集」として「データ確定」させる必要があります。

1. Control キーを押しながらリージョンをクリックし、ショートカットメニューから「MIDI」 > 「リージョンパラメータをノーマライズ」と選択します。
2. Control キーを押しながらリージョンをクリックし、ショートカットメニューから「MIDI」 > 「クオンタイズを破壊的に適用」と選択します。
3. トラック領域のメニューバーから「機能」 > 「リージョンエイリアス」 > 「エイリアスをコピーに変換」と選択し（または「エイリアスをリージョンのコピーに変換」キーコマンドを使います）、エイリアスをリージョンのコピーに変換します。
4. ループを選択して、ショートカットメニューから「変換」 > 「ループをリージョンに変換」と選択し、すべてのループをリージョンに変換します。
5. 「編集」 > 「結合」 > 「リージョンをトラックごとに」と選択し（または「トラックごとにリージョンを結合」キーコマンドを使います）、各トラックのすべての MIDI リージョンを連続した MIDI リージョンに変換します。
6. トラック領域のメニューバーで「機能」 > 「音源の MIDI 設定をイベントとして挿入」と選択し、すべての音源 MIDI 設定をイベントとして挿入します。

以上の作業を終えてから 「ファイル」 > 「書き出す」 > 「選択範囲をMIDIファイルとして」を実行します。